

第2学年 【社会科】学習指導案

日 時	平成 16 年 6 月 29 日 (火) 5 校時
生 徒	2 年 E 組 男子 18 名女子 17 名計 35 名
指導者	教 諭 小 原 朋 子

- 1 単元名 明治維新
- 2 単元について

(1) 教材観

この教材では、19 世紀後半の開国、明治維新以降の日本の近代の歴史について、世界の動きとの関連の中で学習する。この時代の日本は、欧米列強のアジア進出などの複雑な国際情勢の中で開国し、明治政府による明治維新以来、常にアジアや欧米諸国と密接な関わりを持ちながら進展してきた。

本時で扱う「新政府の諸改革」は、明治政府の諸改革によって近代国家の基礎が整えられているのがねらいである。現代につながる諸制度がつくられており、江戸時代との比較をしながら当時の人々の受け止め方に迫ることができる教材といえる。

(2) 生徒観

社会科に対する興味では、歴史的分野の社会的事象に興味・関心をもっている生徒が多い。しかし、その社会的事象の発生の要因を考察したり、概念を文にまとめたりすることは得意としていない生徒が多い。本時では、難語句でのつまずきや理由の考察での停滞が予想されるので補助発問をしながら進めたい。

(3) 指導観

本時は、諸改革の中の「地租改正」を中心に明治政府のねらいや当時の人々の生活の変化に迫っていく。税制の変革を一人一人江戸時代と比較しながらまとめさせ、政府のねらいを考えさせたい。「徴兵令発布」「学制発布」についても「地租改正」を含めた諸改革が関連したものであることに気づかせるようにさせたい。

(4) 家庭学習との連携

本時は、予習プリントによる継続的な学習内容の強化をを目指した授業として展開する。予習プリントには、学習内容の基礎・基本とともに次時の課題に迫るような項目を入れている。授業の重点は、終末で伝えるとともに教科リーダーが紙に書いて張り出し、家庭学習項目にしている。

3 単元の目標

〔社会的事象への関心・意欲〕

明治維新の経緯や人々の生活の変化を、意欲に追究しようとする。

〔社会的な思考・判断〕

新政府の諸改革や文明開化を通して、明治維新のあらましや人々の生活の大きな変化を多面的に考察できる。

〔資料活用の技能・表現〕

明治維新の経緯や人々の生活の変化に関する資料を適切に選択し、まとめることができる。
〔社会的事象についての知識・理解〕

明治維新の経緯のあらましを世界の動きを背景に理解するとともに、近代国家の基礎が整えられたことに気づくことができる。

4 単元の指導計画と評価規準

節	時	指導目標	社会的事象への関心	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
すべてを新しく	1	・新政府は版籍奉還・廃藩置県によって、将軍・大名の領主権を廃止し、中央集権の国家体制を理解させる。 ・封建的身分制度は改められたが、依然として社会的差別が残ったことや、解放令を支えにした新しい解放の動きに気づかせる。	五ヶ条の誓文や五榜の掲示の内容に興味を持ち、積極的に理解しようとする。また廃藩置県や市民平等がもたらした物を考えようとする。		難しい言葉を調べようとする。	
強国をめざして	1 (本時)	・新政府は、徴兵制の発布・地租改正・官営工場の設立などの諸改革を行い、近代国家を目指そうとしたことに気づかせる。 ・地租改正は国家財政の基盤の安定化を図ろうとしたものであったが、農民にとっては依然として重い負担であったことに気づかせる。		殖産興業や徴兵制度、地租改正等を導入する中、新政府がどのような国造りを目指していたかを考えようとしている。		地租改正について、その目的経緯を正確に理解する。またその中で農民たちの思いや願いを理解することができる。
国際関係の確立	1	・近代化の推進に果たした岩倉使節団の意義と新政府が武力を背景に朝鮮に不平等な条約を押しつけたことを理解させる。 ・新政府はロシアとの領土画定及び琉球の日本領土への編入を推し進めていったことを理解させる。	岩倉使節団の派遣に関心を持ち、世界情勢をふまえながら使節団と視察内容を意欲的に調べようとする。		琉球王国の日本への帰属の歩みを年代順にわかりやすくまとめることができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 新政府は徴兵制発布・地租改正・学制などの諸改革を行い、近代国家を目指そうとして

いたことに気づくことができる。

- ・ 地租改正は、国家財政の基盤の安定化を計ろうとしたものであったが、農民にとっては依然として重い負担であったことを理解することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

基準 評価の観点	A 充分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的な思考 ・判断	徴兵制・地租改正・学制等が「富国強兵」実現のための改革であったことを改革であったことを、江戸時代との比較から考える。	地租改正が物納から金納になったことが分かる。	物納から金納になると政府にとって有利なことを挙げる。
社会事象についての知識・理解	地租改正の負担率の内容や地租改正反対一揆から農民にとっては重い負担であったことを理解する。	江戸時代の負担率と比較することができる。	江戸時代の年貢の納め方と一揆が起きた理由を想起させる。

(3) 展開 個に応じた指導 評価

	学習活動及び内容、予想される生徒の反応	支援、評価、留意事項、教具等
導入 7分	1 前時の復習をする。 ・ 廃藩置県などの改革を確認する。 2 明治政府が掲げた「富国強兵」のスローガンから本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「富国強兵」を実現するためにどんなことをしたのだろう。</div>	・ フラッシュカード
展開 35分	3 地租改正の内容を調べる。 江戸時代の税制と比較しながら、物納から金納になると政府にとって都合がよかったことを考える。 ・ 地券に書かれていることを読み取る。 ・ 地租改正一揆が起きた理由から、農民にとっては重い負担であったことに気づく。 4 徴兵制について理解する。 ・ 兵士を養うには財政的基盤が必要であったことに気づく。 5 学制について理解する。 ・ 就学率が低かった理由を考える。	・ 地券の図 ・ プリント ・ 地租改正反対一揆の図 江戸時代の税制との比較ができているか。
終末 8分	6 「富国強兵」のための改革をまとめる。 7 予習プリントのチェック 8 本時の重点と次時の学習内容を知る。	・ 予習プリント